

大きな男の小さな靴

萬野 展（原案・Studio B）

登場人物

近藤 修一郎 検事。

近藤 一葉 弁護士。修一郎の妻。

梶 則子 証人。被害者の婚約者。第一発見者。

横山 登紀子 証人。梶の友人。

星 緑 修一郎の助手。

三戸谷 旬子 一葉の助手。

根岸 万太郎 裁判長。

西田 喜重 裁判官。

工藤 英子 裁判官。

佐々 晋 刑事部長。修一郎の上司。

佐々 未来 刑事。晋の娘。

町田 久志 刑事。

小早川 淳 刑事。

広末 円 警部。

坂口 俊夫 サラリーマン。容疑者。

弥陀ヶ原 隆 泥棒一家の父。

弥陀ヶ原 保子 泥棒一家の母。

弥陀ヶ原 隆行 泥棒一家の長男。

弥陀ヶ原 臯月 泥棒一家の長女。

弥陀ヶ原 弥生 泥棒一家の次女。

小石川 光二 探偵助手。

桐生 晴美 探偵事務所の事務員。

マリア オカマ。

坂口 美佐 自衛官。俊夫の姉。

四日市 一はつ 探偵。

【注記】当脚本の著作権は萬野展が保持する。当脚本の無断上演を禁ずる。

証人1〜2

梶則子・横山登紀子

明かりがつくと舞台中央に立っている梶則子。
 上手、検察側近藤（修）、下手に弁護士側近藤（一）。中央に三人の裁判官。
 舞台最奥部に、被告坂口俊夫がやつれた顔で座っている。

近藤（修） お名前からどうぞ。

梶 梶則子と申します…。

近藤（修） 梶さんは被害者の関口創平さんとうついつつ関係でしたか？

梶 …。

近藤（修） どうぞ。

梶 …結婚…する予定でした。

近藤（修） 婚約者ということですね？

梶 はい。

近藤（修） 肉体関係はありましたか？

梶 …。

近藤（修） 答えにくいでしょうけど、大事なことなんですよ。

梶 …。

近藤（修） 梶さん。

梶 ありました。

近藤（修） 事件当日、梶さんどちらにいらっしやいました？

梶 彼の…関口のアパートに…。

近藤（修） すいません、はっきりしゃべってくださいね。

梶 関口のアパートにおりました。

近藤（修） おひとりでしたか？

梶 私と、横山さんで…

近藤（修） 横山さんというのは誰ですか？

梶 私と関口の、共通の友人です。

近藤（修） 関口さんのアパートに行ったのは何時ごろですか？

梶 朝の9時ごろだったと思います。

近藤（修） 関口さんが死んでいるのを見つけた時の状況を話して欲しいんですが、あ

なたと横山さんは、彼のアパートでなにをなさってたんですか？

梶 …ナベを、つくっておりました。

近藤（修） …ナベ？

梶 …ナベ。

明かりが変わり、事件当日。関口のアパート。

下手袖からは、男の足が突き出している。

その足には、女物の底の厚い靴が引っかかるように履かされている。

横山登紀子、野菜の入ったフクロを持って唄いながら登場。

横山 ホオラ買ってきたわよ。

梶 ああご苦労さんご苦労さん。

横山 凄いわよあそのサミット。広いわよ。

梶 凄いでしょ。広いのよ。

横山　なんだ、幕張メッセかと思っちゃったわよ。誰もいないのよ。あたしだけよ。
 梶　怖いわね。これみじん切りにしてちょうだい。
 横山　怖いわよ、思わず大声で歌唄っちゃったわよ。ちょっとそれ皮剥きなさいよちゃん。

梶　あんた恥ずかしいわね。ところかわまず唄わないでくれる。

横山　（唄っている）みじん切りってあんたこんなのみじん切りにしたらナベん中で消えてなくなっちゃうでしょうが。

梶　いいのよそれで。そういうもんなのよ。ちょっと聞いてんの。

横山　（唄っている）

梶　（対抗して違う歌を唄う）

横山　なんで違う歌唄うのよ！

梶　朝っぱらから三十女が台所で合唱してたら気持ち悪いでしょうが。

横山　ソウちゃん起きたの。

梶　起きない。

横山　起こしなさいよ。

梶　まだいいわよ。ナベに火つけたらでいいわよ。

横山　起こしなさいよ。目覚めていきなりナベ煮えてたらショックでかいわよ。

梶　ナベがいつって彼が言ったの。

横山　ごちそうさま。

梶　どういたしまして。

横山　あたし起こしてこようかな。

梶　いいっぱ。

横山、移動して関口の部屋へ。

横山、男の足の傍らに膝をついて

横山　ちよっと！ソウちゃん！起きてよ！幕張メッセで世界ナベ博やってるわよ！

梶　（聞こえていて思わず笑ってしまう）なに言ってるんの？

横山　ソウちゃんてば！早くしないと外資系企業に肉だけ食べられちゃうわよ！創

平くん！

横山、寝ている男の手を取る、その冷たさにぎょっとする。

横山　…ソウちゃん？

梶、小さく唄の続きを唄っている。

横山　則子。則子ちよっと来て…！

梶　イヤ。（唄を続ける）

横山　ちよっと来てよ！ねえ！

梶　イヤよ。いかない。

横山　…。

横山、立ち上がったって戻ってくる。

横山　電話どこ。電話しなきゃ。

梶　もつしたわ。

横山 ……彼いつからあなの？ ねえ、あんたわかってんの？
 梶 大きな声出さないでよ。近所迷惑。
 横山 電話したって、……どこ電話したの。
 ……

遠くからサイレンの音が聞こえてくる。
 黙ってそれに耳を傾けているふたり。

横山 ねえ…。

梶 ん。

横山 どうして死んじゃったの…？

梶 ……わかんないよ。あたしが来たときから…ずっとああだったもん。

横山 ……

沈黙。サイレンが近づいている。

横山 ……則子。

梶 ……

横山 ……あんたじゃないのね？

梶 ん？ なに？

横山 あんたがやったんじゃないわね？

梶 ……（黙って横山の顔を見る）

横山 ……わかった。

横山、梶の荷物を取ってくる。

梶 ……どうするの？

横山 あんたすぐ帰って。

梶 だって…

横山 あたしひとりだったことにするの。いい？

梶 なに言ってるの…。

横山 あんた、電話で自分の名前言った？

梶 ……（ゆるゆると首を横に振る）

横山 じゃああたしがかけたことにするわ。ほら、さっさとして。

梶 でも…。

横山 あんた自分がどどういう立場かわかってるでしょ。真っ先に疑われるのあんたなんだから。

梶 ……

横山 なにしてんの。早く行って！

梶 いやよ…だってあたし…彼のそばに…

横山 則子。

梶 ……

横山 もう終わったのよ。

梶 ……

横山 楽しい夢はもうおしまいなの。あんたは現実に帰らなきゃいけないの！
 ……

横山 ほら。

横山、梶を押すようにして退場させ、中央に戻ってくる。
証言台の位置である。
明かりが変わり、裁判所。

近藤(一) ……それであなた、部屋にひとりで残られたんですね？

横山 ……はい。

近藤(一) ……どうして梶さんを無理に帰らせたんですか？

横山 ……。

近藤(一) ……彼女が真っ先に疑われると思ったから。そうですか？

横山 ……はい。

近藤(一) ……それはなぜですか？

横山 ……。

近藤(一) ……充分考えて、落ち着いて答えて下さい。

横山 ……たぶん…

近藤(一) ……はい。

横山 たぶん彼女もわかっていたはずですよ。わかっている…でも夢を見ていたくて…それであんなにはしゃいでいたんだと思います。しっかりした人です。会社でもいつも潑刺として…合コンで知り合った彼のことをホントに好きで………だから…

近藤(一) ……はい。

横山 ……私にはわかったんです。あれは…あの人は…あの人は…

近藤(修) たまりかねて咳払い。近藤(一) それをちらりと見て

近藤(一) ……あせらないで話して下さいね。だいじょうぶ、時間はありますから。

近藤(修) ……。

近藤(一) ……あの人というのは、梶則子さんのことですか？

横山 ……いいえ…関口さんです。……あれはたぶん…詐欺です。

近藤(一) ……(黙って続きを待つ)

横山 婚約なんて嘘だったと……思います。あの人は彼女から…お金を巻き上げるだけが目的だった…。

近藤(一) ……あなたはそう思っていたわけですね？

横山 ……周りはみんな…薄々おかしら…でも言えなかった。則子の顔を見ていた

ら…とても…

横山、俯いてしまう。

近藤(一) ……梶さんが殺した、と思いましたが？

横山 ……最初は…そうだと思います。

近藤(一) ……死亡推定時刻は発見から八時間前、その時刻梶さんにはアリバイがありませんね。

横山 ……。

近藤(一) ……それで…あなたは到着した警官に、自分一人だったと言って梶さんをかばおうとした。

横山 ……はい。

近藤（一） わかりました。どうもありがとうございます。（ちょっと考えているが）以上です。

根岸 はい。それでは近藤くん。

近藤（一） はい。

近藤（修） はい。

根岸 ああ…そうか。まぎらわしいなあ。ええと検察の近藤くん。よろしいですか。

近藤（修） けっこうです。

根岸 それでは本日は閉廷といたします。一同起立。閉廷。

礼をする両近藤。

退場する横山。

同じく退場する被告、坂口。

助手の星を呼ぶ近藤（修）。

近藤（修） 星。

星、登場。

星 ハイ。

近藤（修） んー…。

星 なんかマズイです？

近藤（修） いや…いいんだけど…どうもちょっと、わけわかんなくなってきちゃったからな。

星 そうですね。

近藤（修） 向こうと話したい。おまえちょっと行って、そついつぶつに言ってきてくれないか。

星 取引するんですか？

近藤（修） 無理だろ、こんだけ白黒はつきりしてたら。もう殺ったか殺んないかだよ。そつじゃなくて、ちょっと整理したいんだ。

星 わかりました。じゃあ奥さん呼んできますね。

近藤（修） ……近藤弁護士だ。

星 （敬礼して）ラジャー。

近藤（修） あんまり下手に出るなよ。

星 ブラジャー。

近藤（修） は？

星 ……。

近藤（修） あの…あんまり裁判所でおかしなこと口走らないでくれる？

星 電子ジャー。

近藤（修） ……。

星、退場。

近藤（修） あー…（頭を振る）眠い。

上手側。

三戸谷登場。

三戸谷 勝てそうな感じですねっ。さすが先輩だ。

近藤(一) まだわかんないわよ。

三戸谷 だって今、喫煙所で書記官の人たち、こりゃ不充分だなんて言っていましたよ。

近藤(一) 長引いたらどうなるかわかんないって。裁判長、根岸だもん。…それより、ねえどう思うっ？ あっち。

三戸谷 あっち？

近藤(一) なんかなあ…いやな予感するんだよね、あたし。ひよっとして切り札隠してるのかも…。

三戸谷 切り札だったって、もう大した証人も残ってないし…。考え過ぎじゃ…。

近藤(一) …あの顔…あれはアタシの得意科目でアタシよりいい点取ったときの顔よ…。

三戸谷 はあ？

近藤(一) ねえ三戸谷、悪いけどあっちに、ちょっと話したいからって言ってきてくれない。そのへんの空いてる部屋で。

三戸谷 いいんですかあ？

近藤(一) うん。

三戸谷 ケンカしないでくださいよね。

近藤(一) しないわよ。行っ。

三戸谷 はいよ。

三戸谷、退場。

三戸谷、星、それぞれの相手のところへ登場。
それぞれ耳打ち。

三戸谷と近藤(修)、下手に退場。

星と近藤(一)、上手に退場。

三人の裁判官だけが残る。

西田 あああああ…。

工藤 …！

それぞれにカラダをほぐしにかかる裁判官たち。

椅子から逃れてストレッチのようなことをしている工藤。

血相を変えて尻の肉をもみほぐしている西田。

根岸 …んんん。

すぐに腰が伸ばせないのでじりじりと前に進もうとして転ぶ根岸。

根岸 んんッ。

西田 あ。

工藤 あらあら。

慌てて助け起こすふたり。

西田 だいじよぶですか…座りますか？

根岸 んんん。

工藤 立ちたいんですよね。ずっと座ってるんだから立ちたいのよ。

西田 立てます？…あ、ちょっと支えます。

工藤 つかまって…よいしょ。

両脇から支えられてようやくと腰を伸ばして立つ根岸。
スクラムを組んでいるようなかつこつになっている。

工藤 なんか…。

西田 なんかね。

工藤 青春を感じ。

西田 飛び出せ、法廷って感じ。

工藤 飛び出せ、裁判。

西田 すぐ出せ、判決。

工藤 すぐ出せすぐ出せってうるさいんだよ、最近。

西田 しょうがないですよ。日本の裁判は長過ぎるって、ずっと叩かれて続けてきましたからねえ。

工藤 そんなら自分でやれっていつのよ。いっそのこと分割民営化しちゃえばいいのよ。

西田 あ、JRみたいに。

工藤 そ、あれよ、JD。

西田 なんてJD？

工藤 ジャツジ・デパートメント。

西田 なんか、野球の審判組合みたいじゃないですか。

工藤 うーん、裁判は…コート？

西田 コートですね。コート・オブ・ジャスティス…。

工藤 COJ？

西田 語呂が悪いですかね。

根岸 ジャスティス・コーポレーションだ。

工藤 ・西田…。

根岸 ジャスティス・コープ。

工藤 正義株式会社。

西田 ジャスコになっちゃいますね…。

根岸 そんなことはどうでもよい。

工藤 はい。

根岸 どうなんだ、君ら。さっきの事件。

工藤 無罪でしょう、あれ。

西田 証拠不十分だと思いますけど…。

根岸 不十分か。

西田 じゃないですかね。

根岸 工藤くんはどうだ。とりあえずいい加減に座らないか、これ。

根岸を座らせ、ふたりも席に着く。

根岸 今回は主文は君たちに書いてもらうんだから、充分考えてくれ。無罪でいいの
か。どうなんだ。

工藤 ええ、無罪じゃないかと…

西田 思いますけど…

根岸 はつきりしなさいッ。語尾を濁すなッ。いいか。あせることはない。じゅうぶん
に考え、客観的に事実を見極め、決して軽率な結論を出してはならない。それが
裁判官の役目だ。さあ、どうなんだ、無罪でいいのか。本当にあの男を世間に解
き放つていいのか。どうなんだ。

工藤 …。

西田 …。

根岸 返事が遅い！ 早く答えなさい！ 白か黒か！ ズバツと！ 思い切りよく！

工藤 …、無罪。

西田 無罪です！

根岸 じゅうぶん考えるんだ。時間はある。あせることはない。あせって軽率な結
論を出すことがあってはなるまい。良識を持って公平な判断を下さなければなら
ない。われわれがその努力を怠れば、世間はあつという間に野獣のような性欲
だけのゴロツキどもが満ちあふれ、善良な処女は貞操の危機に緋を裂くような
悲鳴をあげて月の光の下逃げまどう。しかし逃げ道はない。乙女のピンチ。緋
を裂く悲鳴。月光の下、薄ものをはためかせ乙女は走る。逃げ場はない。絶体
絶命。……………。

根岸、忽然と放心している。

西田 …。

工藤 あの…根岸さん？

西田 恍惚としています。

工藤 あぶないなあ…。

西田 無罪だと思っただけ…。

工藤 もうちよつと保留にしましょう。

西田 はい。

工藤 あの子、可愛いから無罪にしてあげたいんだけどなあ…。

西田 …。

工藤 なによ、その目は。

西田 いえ。

工藤 いいじゃないの、なんか頼りなさそうで、くすぐられるのよね、なんか。

西田 はあ。

工藤 そつね、有罪でもいいかも。

西田 え。

工藤 だってさ、あの被告の子、有罪になったらどんな悲劇的な顔するか、ちよつと見
てみたいわあ。

西田 不謹慎ですよ。

工藤 わかつてるわよお。冗談よ。どうせどつちに転んでも控訴するんだから、いい
じゃないの。だいたいあんただってね、弁護士が可愛いとあからさまに同情的に
判決出すじゃないの。

西田 えっ。いや……………今回は違います。

工藤 わかつてんのよ、あなたの好みくらい。キリッとしたの駄目でしょ。ポチャポ
チャっとしててさ、二つ目見るよつなさ、カマトトっぽい子がいいんでしょが。
西田 …（反論できなご）

工藤 あんたの行きつけの店でいうとセリナちゃんとかヒナちゃんとか。(手帳を出している)

西田 ええっ、ちょっと…行きつけの店って…!

工藤 あのホラ、コスチュームブレイの店。アニメ系の。

西田 ぬっわんでそんなことっお!

工藤 あたしはね、なんでも知ってるの。

根岸 おっ! そっだ。

復活する根岸に驚くふたり。

根岸 西田くん!

西田 はい。

根岸 明日だぞ明日。アレ。コスプレで思い出した。わかっとなるか。

西田 あ。はい…。

工藤 なんです?

根岸 うん、実はこの西田くんがな、おみ…

西田 どうわあああ~~~~

工藤 …。

根岸 …。

西田 ~~~~~ツと咲いた花火はキレイだな〜…っ。

工藤 … なんなのよ。

根岸 …(空を見上げているが、屋内なので花火はない)

西田 まあ、まあ、まあ、いいじゃないですか。それじゃ、そういうことで。いきま

しょう根岸さん。

根岸 うん…(花火が気になっている)

根岸、西田、退場。

工藤 ちょっと、なんなのよ、あたしに教えてよ…!

工藤、追って退場。

明かりが変わり、裁判所内の小部屋。

近藤(修)と三戸谷、近藤(一)と星、登場。

近藤(修) … ちょっと化粧濃いんじゃないのか。

近藤(一) ネクタイ曲がってるわ。(直す)

近藤(修) あ、悪い。

近藤(一) … ねえ、変に長引かせるのやめてよ。

近藤(修) …。

近藤(一) 不利なの分かってるくせに妙に甘んばっちゃって。

近藤(修) 余計なお世話だ。おまえこそなんだ、あの「異議あり」っていつの、みっともないからやめろって言っただろ。いまだき誰もそんな芝居みたセリフ言わねえぞ。

近藤(一) ほっとして。そんなことより、どうなの、あなた、なんか持ってるでしょう。

近藤(修) …。

近藤（一） 三戸谷、ホラ、ホラ、この顔よ。

三戸谷、のぞき込んで

三戸谷 ああ。（納得する）

近藤（修） ……なんだよ。

近藤（一） ね。

三戸谷 うんうん。

星 うーん。

星のぞき込んでいる。

近藤（修） おまえはなんなんだ！

星 いやあ。

近藤（一） なんか隠してるわ。

近藤（修） 隠してないよ。

近藤（一） 隠してる。

近藤（修） 隠してません。

近藤（一） 隠してます。

近藤（修） ……。

近藤（一） なにがあるのよ。

近藤（修） おまえなあ、仮になんかあったとしたって、なんでそれを被告の弁護士に

イチイチ報告せにゃならんの！

近藤（一） 被告の男の子、三戸谷の彼氏なの知ってるでしょう？

近藤（修） だからなんだよ。

近藤（一） 可哀相じゃないのよ、彼氏に前科ついちゃったら。

近藤（修） そりゃ…、そんなのオマエ…、そんなの公私近藤だろうが！

近藤（一） シヤレてる場合じゃないでしょ！

近藤（修） ……。

近藤（一） ……。

近藤（修） ……とにかく、一度起訴しちゃったらそう簡単に引つ込みつかないんだよ、

日本の警察は。

近藤（一） よく調べないほうが悪いんじゃないか。

近藤（修） 俺が調べたワケじゃない、調べたのは警察だ！

近藤（一） 指揮してんのは検察でしょうが！

近藤（修） 一人で何十件と抱えてるんだぞ、いちいち全部見てられるか！

星 うわあッ！

一回、ぎょっとして星を見る。

星 ……ちよつと失礼します。

星、携帯電話を取り出しつつ、そそくさと退場。

近藤（一） ……なにがあったの、今。

近藤（修） 気にするな。たぶん…バイブだ。

近藤（一） ばいぶ？

近藤(修) いやな予感がする…。

星に連れられて佐々登場。
ゴルフ帰りのようなスタイル。

佐々 ああ、ホントだ。こんなどこにいたいた。

星 近藤さん、刑事部長がお見えです。

近藤(修) …。

佐々 いやあ、ちょっと近くを通りかかったもんだからさ。きちやったよ。

近藤(修) はあ。どうも。

佐々 今回ホラ、近藤くん悩んでたから、心配でね。どうっ。さいばん。

近藤(修) ああ、あの…

佐々 なんか、証拠足りてる？ あの、例の探偵、もう証言させた？

近藤(一) …？

近藤(修) あああ、あのッ、部長ッ、こちが被告弁護にあたってらっしゃる、近藤弁

護士ッ、ですッ！

佐々 あ。

近藤(修) はい。

佐々 あああ。じゃあ例の。これが。近藤くんの。奥さん。はあはあはあ。あ、この方。あ、そう。あ、どうもどうも。はじめまして。

近藤(一) どうも、近藤です。

佐々 佐々と申します。まあ、一応、近藤くんの直属の上司ということになりますか。

近藤(一) 主人がお世話になっております。今後ともなにぶんよろしくお願ひします。

佐々 あはあ、こりゃあこ丁寧にどうも。いやあ近藤くん、いい奥さんじゃないか。

近藤(修) …。

佐々 しかし近藤くん、こりゃあ、あれだな、この裁判落とすわけにいかないな。だってホラ、負けちゃったらさ、公私近藤、なんて言われちゃうぞ、なあ。ははははは。

近藤(一) … (ゴッゴッ)

近藤(修) … (げんなり)

佐々 (一人で笑っている) 面白いね、公私、近藤。面白い？

星 いいえ。

佐々 あそう。まあいいや。いやあ、なんか邪魔しちゃって悪かったね。奥さんもすいませんね。どうぞどうぞ。続けて続けて。(離れていく)

近藤(修) どうもご苦労様でした。

佐々 いやいや。ぜんぜん。ボクなんかホラ、裁判のことわかんないし、応援団みたいなもんだからさ。

そういつつ、後ろの方の椅子に腰を据える佐々。

近藤(修) …。

佐々 緑くん、ノド飴持ってない？

星 持ってません。

佐々 あそう。うん。いいやいいや。

近藤(修) …と、とにかく、なんだ、君のその公私…公私をわきまえない申し出には、検察官として応じるわけにはいかない。

近藤(一) 検察がどんな証人を呼ぶのかを事前に知ることは、法律で保証された弁護士の権利です。

近藤(修) だからリストは提出してある。

近藤(一) 本当にあれで全部？

近藤(修) くどい！

近藤(一) じゃあ探偵ってなんのことよ。

近藤(修) おまえには関係ない！

近藤(一) あなた昔っからそうじゃない。あたしがいい気分していると必ず水かけるよ
うなことしてさ。

近藤(修) なんてそういう話になるんだ！

近藤(一) そんなに一番でいたいわけ？ あたしが先に司法試験受かったのがそんなに気にいらなわけ？

近藤(修) そんなことは今関係ないだろ！

近藤(一) 関係あるわよ。あたしが相手だとヘンに粘っちゃってさ。意地でも勝ってやるって思ってたでしょ、どうせ。

近藤(修) んなこと思ってたない。

近藤(一) 思ってますね。

近藤(修) 思ってたない！

佐々 え、近藤くん、勝とうと思ってるの？

近藤(修) …思ってます。ていうか勝ちます！ 勝ちますからちょっと黙ってて。

佐々 OK。

近藤(一) ホラやっぱりそうなんじゃない。

近藤(修) あげ足取るんじゃないっ。おまえこそなんだ！ 駆け出しのヒヨコ子じゃあるまいし、ちょっとは体裁ってもんを考える。俺が相手だと目エつり上げて金切り声出しやがって…。

近藤(一) つり上げてません。

近藤(修) つり上げてるじゃねえか。

近藤(一) つり上げてません！

近藤(修) だいたいなんだよオマエは。仕事になると家のことほっぽりだしやがって。俺なんか昨日カップラーメンとお稲荷さんだったんだぞ。

近藤(一) お互い様でしょ！ あたしだって昨日はセブインレブンの小割けソバよ！

近藤(修) 結婚するときオマエなんて言ったよ、あなたに俺びしい想いはさせないわ、なんて言っといてよ。

近藤(一) そんなこと言っていないわよ！

近藤(修) 言いました。「家事のことでケンカしないで話しあっていこうね」って言うてました。

近藤(一) あれは…あれは火事とケンカは江戸の花よね、って言ったんです。

近藤(修) 嘘つけ！

近藤(一) 嘘じゃないもん！

近藤(修) ぜったい嘘！

三戸谷 …(咳払い)

近藤(修) ……とにかく、だ…。
 近藤(一) とにかく、なんか隠し玉持ってんなら、いいわ、やってもらいなさいよ。
 返り討ちよ。
 近藤(修) なにおう。
 近藤(一) なによう。

にらみ合うふたり。三戸谷、ため息。
 ブイッと顔を背けて離れる。
 慌てて近藤(一)の後を追う三戸谷。

近藤(一) そうだ…。(振り返って) ねえ。

近藤(修) ああん？

近藤(一) 被害者の靴のこと、警察ってあれ、どう思ってたの。

近藤(修) 靴ウ？

近藤(一) あれってなんかフシギじゃないの。犯人がなんであんなことしたのか、なんの説明もなかったけど？

近藤(修) (よく思い出せない) そんなことはオマエ…そんなことはな、法廷で質問しろ、法廷で！

近藤(一) ああそうですか。

近藤(修) じゃあな…今日は遅くなるぞ！

近藤(一) あたしもですう。(憎たらしい顔)

近藤(修) ……。

近藤(修) 退場。
 近藤(一) 三戸谷とともに退場。

佐々 ……はあ…。……すこいね。

星 ……。

佐々 お。気がつけば、ふたりきりだな。(咳払い) 星くんは、もう帰るの？

星 緑って呼んで。

佐々 ……。(キョロキョロする)

星 だいじょうぶ、見ているのは神様だけ。

佐々 ……うん、……ていつか……そうね、神様ね。

星 晋^{すすむ}。

佐々 ……あ、うん。

星 すすむ。

佐々 うん……みどり。

星 会いたかった。

佐々 うん、そりゃボクもさ。

星 さあ。(手をささじのべる)

佐々 さあって…うん。まあ。(差し出された手をとる)

星 もつと奥へと。(導いていく)

佐々 ていうか…帰らないか、もう。

星 さあ。奥へ。迷宮の奥へと…

佐々 迷宮って…あのさ…あ…

とかなんとか言いつつ退場していくふたり。

証人3

— 小石川光二 —

早朝の警察署。捜査第三係。
居眠りしている小早川。
駆け込んでくる未来。

未来 おはようございます。セーフ！…あれ。

ピクともせずに寝ている小早川。

急いできたのに閑散としているので、拍子抜けしている未来。

町田、奥から登場。

未来 あ。

町田 お。おはよう。

未来 おはようございます。広末さんは？

町田 ん？ 警部はまだ。

未来 なんだ、急いできて損しちゃった…。

町田 はは。まあ早起きは三文の徳っていうから。

未来 三文ていくらですか。

町田 さあ。

小早川、椅子からすり落ちる。

小早川 いてっ。いてっ。

町田 朝だよ、小早川くん。

小早川 …。

小早川、椅子から落ちたまま動かない。

町田 おい、小早川くん。お茶入れたぞ。おい！

小早川 …。(寝息を立てている)

未来 (覗きこむ) また寝たみたいです。

町田 なかなか根性が入ったやつだ。

未来 起こしましょうか？

町田 うん。起こそう。ちょっと打ち合わせしたいからぞ。

未来 小早川っ。ホラ起きろっ。

小早川 うーん…。

未来 小早川くうん。朝ご飯出来たわよお。

小早川 んんん、もう食べられないよお…

広末 …。小早川くん！ 警部！ 広末警部が来たわよ！

小早川 (ガバと起きて直立不動、敬礼) あっ、おっ、おはっ、おはようございます…あれ？

未来 おはよう。

小早川 なんだ…。寝ちゃったのか…。

町田 へい苦勞さん。

小早川 ああ、どうも、おはようございます。

町田 さっそくで悪いんだけど、ちょっと警部来る前に、昨日の捜査結果まとめようや。広末さんのことだから、

未来 報告書なんかいいから要点だけまとめてしゃべれつ。

町田 つて絶対あの人言うから。

小早川 なるほど。

町田 そんなじゃ小早川くんから。

小早川 はい。ええ、まず、先々週の二丁目商店街「山下精米店」におけるアキタコマチ窃盗事件の聞き込みです。現場周辺で事件当日不審な人物をみかけたという伝聞は今のところありません。

町田 はい。

未来 同じく先週の二丁目商店街「ミートの久保田」における牛肉窃盗事件の聞き込みの続きです。不審な人物を見たという聞き込みはありませんでした。

町田 はい。

小早川 続いて先週の八百屋の「ヤオ九」でのネギ・春菊他窃盗事件。同じく有力な聞き込みはありません。あつ、それから、野村薬局の主人の話ですが、ええと……「同じことを何度も聞きにくるなっ」との、クレームを受けました。

町田 ああ、肉屋と米屋のあいだにあるからな……。

未来 さらに三週間前の二丁目商店街「サカエ電気商会」での簡易ガスコンロ及び付属のガスボンベ一式窃盗事件の聞き込みですが、これといった成果ありません。あ、野村薬局の主人から、えーと、「いいかげんにしろ、あんたらほどヒマじゃない」とのことです。

町田 電気屋の向かいだからなあ。

小早川 以下同様に、金子豆腐店での絹ごし豆腐窃盗事件、てがかりなし。

未来 スーパー・ミニマでの砂糖・ミリン等調味料窃盗事件、てがかりなし。

小早川 いずれも野村薬局のご主人からきついお叱りを受けております。

町田 商店街の真ん中にあるからな……。

小早川 ……あの、私思いつんですが……

町田 ん？

小早川 これ、全部同一犯なんじゃないですかね？

町田 そうかなあ。

未来 でも、手口とか全部バラバラなのよ。

町田 一本にまとめちゃいたい気持ちもわかるけど、そりゃあどうかなあ。

小早川 その、盗まれた品目、よく見て下さいよ。

町田 (手帳をじつと見ている)……。米…牛肉…豆腐……………ああ……。

小早川 ……ね。

町田 ……………スキヤキ…か。

広末警部、登場。

広末 早いな、みんな。

小早川 (直立不動)おはようございますッ。

未来 おはようございます。

町田 おはようございます。ちよつとよかった。

広末 んー？

町田 今、昨日の捜査結果のまとめをやってまして。
広末 んー。(心じつとめんどくさそうに感づいて)

町田 それで小早川くんが面白いことを言い出したんですよ。
 広末 そうか、そりゃ愉快だ。

町田 …はあ。小早川くん、ご説明申し上げます。

小早川 ええ、不肖小早川、僭越ながら申し上げます。今回の二丁目商店街での窃盗事件は、個々の手口はバラバラながら、それは実は当局に対する目くらましであり、スキヤキを作成せんとする同一犯人グループによる計画的連続的犯行ではないかと…

広末 小早川。

小早川 はっ。

広末 君、靴いくつだ。

小早川 はっ？

広末 靴はいくつだと聞いている。

小早川 えっ、い、いくつと申されますと…ええ…それはサイズのことです…

広末 もういい。佐々くん、君、靴いくつ？

未来 え、23・5ですけど…

広末 ちょっと脱いでみて。

未来 え、あの…

広末 いいから。誰も君の靴をとって喰いやしないから。ホラ早く！

未来 はっ、はい！（靴を脱ぐ）

町田 あの、警部…？ いったい…

広末 小早川。

小早川 はっ。

広末 これ、喰ってみる。

小早川 えっ。

広末 嘘。履いてみる。

小早川 え、しかし…

町田 警部、そりゃちょっと無理あるでしょう。

広末 わかっとなる。

町田 …？

広末 …。（ため息。そして考え込む）

小早川 不肖わたくし、履かせていただきます。

小早川、未来の靴に無理矢理足を入れようとする。

未来 ちょっと！ 広がっちゃうじゃないの。

小早川 だって警部が…

未来 返してよ！

町田 おいおい。ちょっと静かにしろ。

広末 そうなんだ。

町田 …は？

広末 広がっちゃうんだよなあ…。

町田 あの、なんのお話？

広末 ガイシャの足、27・5。大足だね。それで、その足に無理矢理履かされたのよ、23の靴。

町田 …？ ガイシャ？

小早川 ガイシャ！ ガイシャというと、ひょっとしてそれは！

未来 ついに野村薬局に被害が…

小早川 ちゃうわ！ そんなみみっちい話ちゃう！ ガイシャ、それはズバリ、殺人事件の被害者！

広末 あのね、町田くん。うち、今日から関口創平殺害事件の後追い捜査やるから。他の仕事は全部ストップね。いいね。

町田 え、いや、しかし警部。コロシなんてウチの仕事じゃ…

広末 カミ、もらって来た。

町田 …広末警部を…をもって…関口創平殺害事件捜査…全権委任…責任者とする。警視ソーカン…警視総監っ？

広末 一課のオジサンたちがどうせ騒ぐからさ、めんどくさいからヤダってコネたら、くれた。そのヘンの壁に貼っつけといて。

町田 は、はいっ。…こりゃエライこった…。

小早川 ああつ、自分は、自分は…今、猛烈に感動しておりますっ。さすがは、さすがは広末警部。ついてきてよかった…。

未来 だけど、殺人事件の捜査なんてあたしたちでできるの？

小早川 できるよ、できる…

未来 関口事件で、今裁判やってるヤツよね。なんで今更捜査やりなおしなの？

小早川 そりゃアナタ、…えーと…

広末 いいから。そんなことはね、君らが考えてもしょうがないんだから。世の中には考えてもわかんないことと考えてもしょうがないことがあるの。町田くんなんてんの。

小早川 うーん、名言だ…。

町田 (辞令を持ってうろろろしている) いや、あの…これを貼る画紙を…

広末 うん、君だけだ、実のある仕事をしているのは。よし、画紙はいいから君、一課行って今までの記録全部借りてきて。

町田 はっ、はい。

広末 チャチャチャつとやつちゃうから、もっ。…佐々くんさ、確か君のお父さん、検察庁にいたよね。

未来 はい。

広末 裁判のほうはどうなってんのか、ちょっと聞いといて。まあなんか負けるらしいんだけど。

未来 負けて…容疑者は無罪ってことですか？

広末 だからこつちに尻拭い用の手ぬぐいがヒラヒラと舞い込んで来たんじゃないか。まったく…。よし、じゃあやるか！ 佐々くん、おいで。いつものキツチャ店いこ。ココア飲みたい。町田くん。

町田 はいやあ。

広末 まだいたのか…。資料借りたらルノールに持ってきて。よし、行動開始。

町田 はっ。

町田、退場。

小早川 あのと、あのと、自分、自分はなにを！

広末 自分は野村薬局の主人からもういつかい聞き込みしてこい。
 小早川 ええつ、だって他の事件は全部ストップだって…
 広末 ストップつたって誰かがやってるフリしなきゃしょうがないだろ。いいから行って来いッ！

小早川 は、はいーッ！

広末 あ、小早川。

小早川 はい？

広末 スキヤキの件な。あれ、当たってる。

小早川 え。

広末 材料、ちょうどひと家族分だ。そうだな、四人から五人家族。二丁目周辺。あたって。

小早川 は、はいっ！

広末 佐々くんいくよ。

未来 はい！

小早川、走って退場。

広末、未来、退場。

面会室。

容疑者・坂口俊夫登場。そこへ、三戸谷旬子登場。

三戸谷 俊夫。

坂口 あ…旬子。

三戸谷にすがりつく坂口。

坂口 旬子お。寂しかったよお…。

三戸谷 …バカなんだからホントに。

坂口 …だって、だつてさあ。

三戸谷 だいじょうぶよ。ウチの大先生がついたからね。きつと勝てるわよ。

坂口 おれ、やってないんだよ…。

三戸谷 わかっているわかってる。俊夫にそんな大それたことできるわけないもの。…なんか欲しいものない？ 差し入れしてあげる。

坂口 ……ピザまん喰いたい…。

三戸谷 はいはい。

坂口 ピザまんと肉まんとかレーまん一個つつ喰いたい。…ああなんでこんなことになっちゃったのかなあ。

三戸谷 ふふ。

坂口 なんだよ、オマエ、なんでそんなに嬉しそうにしてんだよ。

三戸谷 え、あたし嬉しそう？

坂口 笑ってるじゃんか。

三戸谷 笑ってないわよ、真剣よ。

坂口 …俺さあ、やっぱ会社クビかな？

三戸谷 ポートローズ？ いいじゃないクビでも。どうせつぶれそうなんだから。

坂口 そうかな？

三戸谷 バブルの時の借金漬けでボーナスも出ないんだから惜しくないじゃない。だいたいアナタ似合わないわよ、アパレル業界。

坂口 だけどなあ。

三戸谷 そんなこと今は心配しないの。求刑は死刑なんだからね。もし有罪になっちゃったら、一等減刑でも無期。刑務所から一生出られないわよ。そうになったら会社どころじゃないでしょ。

坂口 うわあ…。

三戸谷 情けない顔しないの。だいじよぶ。あたし毎日、差し入れするよ。

坂口 えっ。オマエだいじよぶだって言ったじゃないかよ！俺、有罪になんのかよ？

三戸谷 だいじよぶだとは思っけど…裁判で怖いよ。結局裁判官次第だからね。特に裁判長が今回…。

坂口 なに、なによ。

三戸谷 根岸っていうんだけど、これがネックなの。

坂口 ネ…ネックってなに？

三戸谷 とにかくバンバン有罪にするんで有名なの。疑わしきは有罪っていう思想の持ち主。法曹界じゃ死神根岸って言って悪名高いのよ。

坂口 え、死神…？

三戸谷 でも希望もあるわ。工藤が入ってるから。これはね、オバサンんだけど、あの凄い面食いなの。

坂口 メンクイ…？

三戸谷 鼻肩が凄いのよ。弁護士がハンサムだとまず無罪っていう…。あなた、法廷でなるべく頼りなさそうな、はかなげな風情にしてなきゃだめよ。そういうのに弱いんだって有名なんだから。

坂口 はかなげって…どうすりゃいいんだよ。

三戸谷 そう、そういう感じ。

坂口 …？

三戸谷 だいじよぶよ、きつと。だってどう考えたって証拠不十分だもん。指紋が出たわけでもないし、ただあなたにアリバイがなくて、殺された関口さんが前にあなと同じ会社において、そのとき金銭上のトラブルがあった、事件前日の夜、関口さんとたまたま会っていたって、それだけじゃない。

坂口 …。

三戸谷 それだけなんでしょ？

坂口 でも靴がさ…。

三戸谷 ああ、被害者が履いてた靴？会社であなたが担当してるってやつ？あんなの…。

坂口 売れないんだ、あの靴…。

三戸谷 古いもん、だって、あれ、今時厚ソコなんて。十年くらい古いわよ。だいたい在庫品じゃないの、あれ。

坂口 売れ残ってたんだよ、返品の手が倉庫にいっぱい。

三戸谷 だいじよぶよ、状況証拠だし、アレあんまり問題になってないもん。ねえ、そんなことより、あなたホントにアリバイないの？それさえあればこんなの完全は無罪なのよ。

坂口 …確かにあの日関口さんと会ったけど…。

三戸谷 また借金頼まれたんでしょ。ホント気が弱いんだから。死んだ人のこと悪くは言いたくないけど…でも、相当危ないヒトだったみたいじゃないの。そんな人とずっと腐れ縁でつきあってるからこんな目に遭うのよ。

坂口 関口さんと会ってから…俺、だいぶ飲んでたから…。ほとんど覚えてないんだよ。朝は自分の部屋で目が覚めたけど。

三戸谷 得意ワザよねえ、それ。

坂口 でも誰かに会ったんだ…。俺。夢じゃないよ。誰かが道ばたで寝てた俺のこと、のぞき込んでた…。

三戸谷 それをもっとハッキリ憶えてればよかったのよねえ…。警察の取り調べでも取り合ってもらえなかったんでしょ？ ねえ、よく思い出してみた？

坂口 ……。黒人…。

三戸谷 はい？

坂口 黒人だったような気がする…。

三戸谷 こくじん…？

坂口 (頭を抱える) だめだ…思い出せないよ…。

三戸谷 いいのよ…そんな情けない顔しないで。なんか疼いてきちゃっ。

坂口 句子…。

三戸谷 俊夫…。

メイン舞台が怪しげな雰囲気になっている頃、小早川、尾行風に登場。

様子をつかがっているが、やおら携帯電話を出す。

この間、メイン舞台は坂口・三戸谷が退場。弥陀ヶ原一家が配置する。

小早川 …あ、もしもし、こちら小早川@尾行中です。連続窃盗家族と目される弥陀ヶ原一家は、そろって都内の高級ホテルに入りました。いえ、目的は不明です。はい。引き続き監視を続けます。以上。なあんちゃって…。圏外だつ…。警部、またルノールだな…。畜生、やっぱ俺も殺人事件やりたかったなあ…。

見張りを続ける小早川。

一方、日本庭園を見晴らすホテルの和室。

精一杯着飾った皐月と付き添いの父・隆、母・保子、兄・隆行、妹・弥生。

横一線に座っている。

カッコーンと獅子威しが鳴る。

保子 (お茶をすすって)…いい庭。

隆 いい庭だ。

保子 ホラ、見てあなた。

隆 ああ。

保子 あそこに。

隆 うん。

保子 ねえ。

隆 石だ。

保子 ホントに。

カッコーン。

そして沈黙。遠くに聞こえる音楽。

保子はまた茶をすすって庭を眺めている。

保子 …あら。
 隆 おお。
 保子 ほら。
 隆 木だな。
 保子 ねえ。
 隆 うん。木だ。
 保子 木が生えてるのねえ。
 隆 いい庭だな。
 保子 ホントに。

茶をすする。

隆行 …いつまでやってんだよ。
 保子 あら。
 隆 なんだ隆行。どうやら虫の居所が悪いようだな。
 隆行 まったりしてる場合じゃないだろ。
 弥生 小津安二郎の世界じゃないんだから。
 隆 おほ、弥生まで。
 弥生 オホじゃないわよ。もつと緊張してよ。こんなチャンス二度とないかもしれないんだからね。
 隆 まったくだ。
 保子 ホントにねえ、お見合いなんて母さんもしたことないから勝手がわかんないわ。
 隆 そうだ。なにを隠そう母さんとは恋愛結婚だったんだ。
 隆行 一生隠しとけ、そんなことは。
 隆 え？（なぜか照れてる）
 隆行 そんなことじゃなくてね。いいのかよ、これで。
 隆 なにが？
 隆行 そりゃ確かに、着飾ったほうがいいとは思っけどさ。
 隆 うん、まあなあ。

一同、あたためて臯月を見る。

隆行 いいのかよ、これで。
 隆 なんでこんなピーターパンみたいなカッコになっちゃったんだろつ。
 保子 かわいいじゃないの。
 隆行 こんなピーターパンはいません！
 隆 あれ、そうかな。
 弥生 しょうがないわよ、総力を結集して着飾ったらこつなつちやったんだから。それよりさ、もうちよつと緊張したほうがいいんじゃないの。だいたい当事者のお姉ちゃんがこんな…

臯月、きわめてなごやかな表情で庭を眺めている。

隆行 …しこたまリラックスしてるな。
 隆 なかなか度胸があるなあ、臯月は。
 保子 お父さんの血筋ですかねえ。

弥生 ちよつとお姉ちゃん、少しシャッキリしなよ。あんまりリラックスしていると見合
い慣れしていると思われちゃうよ。

隆行 ああ、そうだよ。

弥生 ねえ。

隆 なるほど、そういうこともあるな。

保子 それもマズいわね。…ねえ、臯月。…臯月…？

隆 ……どした？

保子 ……あら、なんか、気絶…してるみたい。

弥生 えっ。

カクン、と首が折れて、横倒しに倒れ込む臯月。

隆行 わあ。

必死に臯月を支えて助け起こす家族。

保子 臯月。臯月。起きなさい。

臯月 うっん…。

隆 気がついたか。

臯月 ……。

保子 臯月。

弥生 お姉ちゃん。

臯月 親しい人たちといっしょに…

保子 は？

臯月 (夢見るような調子で) 親しい人たちといっしょに、嵐のあとの庭で、礼儀正しい会話を交わしていたの…。その庭から大きな桜の木が見えていた。嵐で折れかかった太い枝が、今にも落ちそうに揺れている…。

隆行 なんの話？

弥生 さあ。

臯月 私は「男らしい人」に断つて、それを切りに行くことにした。思えばそれが間違いの始まりだった…。

弥生 ちよつと、お姉ちゃん？

臯月 桜の木に登るためには、裏の森に回らなければいけないの。それが…長い旅の始まりだった。ナースが人質に取られている。そして森は病んでいた。鉄棒の上にはたくさん牛や猫。そして私だけがゲームのルールを知らない。渋谷。渋谷の「我門」という名のバー。とにかくそこにいくのよ。手がかりはこの衛星携帯電話だけ。落ち着いて、まだ時間はある…。

一同、呆然としている。

臯月 ……そんな夢を、今…見ていたの。

一同 ……。

臯月 おはよ。

隆 いや、おはよって言われても。

隆行 なんなんだ！

保子 素敵な夢じゃない、なんだか。

隆 まあなあ。
 隆行 母さんは黙って。
 弥生 なに、その夢あたしたちに分析でもしろっていうの？
 臯月 ……ここ、どこ？
 隆行 これだよ。
 隆 おいおい、臯月。
 弥生 緊張のあまり現実逃避してるじゃないの。
 保子 お見合いよ、臯月。わかってる？
 弥生 お姉ちゃんしつかりして！ これからお見合いするのよ！
 臯月 ……ああ…また夢の続き…あなたたちは誰？（自分の服に気づく）ああ、なぜこんなピーターパンのような格好を…
 隆 ほら、やっぱりピーターパンだ。
 隆行 はいはい。
 弥生 ちよつとお姉ちゃん、しつかりして！ わかってんの？ お見合いよ！
 臯月 え…？
 隆行 我々一家がこの究極の貧乏から脱出する最後のチャンスなんだぞ！
 弥生 そうそう。相手はなんたって高級官僚よ。そうよねお父さん。
 隆 んっ？
 弥生 見合いの相手。
 隆 いやあ…父さんは恋愛結婚だったから。
 弥生 ……いつペン殺したるか、このオヤジは…。
 保子 それがねえ、なんかはつきりしないのよねえ。公務員は公務員らしいんだけど…。
 隆行 公務員たってピンからキリまであるからなあ。
 弥生 はつきりしないってのはどういふことなのよ。
 保子 さあ…なにしろお父さんの前の前の職場でお世話になった部長さんの奥さんのカラオケの先生のお家に一時居候していたフィリピン大使館の職員のお兄さんのご紹介なもんだから。
 弥生 なんかただの他人より遠い感じがするわね…。
 隆行 フィリピン人なんじゃないだろうな…。
 保子 日本人よ。まだ若くって。とにかく向こうさんが写真見て、乗り気らしいのよお。
 弥生 乗り気だったって、正体ハッキリないっていうのは、どういふことなのかな…。
 隆行 ……まさか…警察関係の人間じゃないだろうな…。
 一 同、ギョツとする。
 隆 まずいぞ、それは。
 弥生 まずい。
 保子 まずいかしら。
 弥生 まずいでしようよ。そりゃ。
 隆行 もう警察にマークされてるかもしれないんだから。
 保子 え、そつなの？
 弥生 こないだだって、ウチのまわりに変なイカれた兄ちゃんウロウロしてたんだから。あれ、刑事が変装して張り込みしてたんじゃないかって…ねえ。
 隆行 やっぱリスキヤキ作戦がまずかった…。

弥生 あれで足がついちゃったのかも…。
 隆行 アカラサマだったもんなあ…。
 保子 おいしかったわねえ、スキヤキ。
 隆 んむ。あれは確か、皐月にお見合いの話が来て、その前祝いだったんだ。
 保子 そうそう。
 隆行 うん、おいしかった…。いや、そうじゃなくて。

後方に、西田を連れた根岸登場。

根岸 ごめん。
 弥陀ヶ原家一同 はっ。
 根岸 えええ、こちら、その、なんだ…
 隆行 …あの…もしかして…
 根岸 ああ、ええ…
 保子 あの…お見合いの…
 根岸 そうそう。
 保子 あら。
 隆 うん。
 根岸 弥陀ヶ原。
 隆 はい。
 保子 あの…西田…。
 根岸 ああ。西田。
 西田 はい。
 保子 あらあら。
 隆 うんうん。
 根岸 まあまあ。あつ。座り、
 隆 座る。そうそう。
 保子 ええ、ええ。
 根岸 ましょう、うん。

一同、三々五々に座る。

根岸 あああ。あの、こちらが、
 保子 ええ、そう、ねえ、あなた、
 隆 ああ、うん、そう、
 根岸 皐月、
 保子 皐月、
 根岸 さん、ね、
 皐月 …。(じつと西田を見ている)
 西田 あの、西田喜重です。
 皐月 …。

皐月、緊張のあまり言葉が出ない。そのかわりすつと手が上がる。
 あわててそれを押さえる弥生と隆行。

西田 あの…す、すて…すてきな、服ですね。

梶月 …。
西田 あっ、あの…
梶月 …。
西田 …。

見つめ合うふたり。

隆行 なんかわからんが意気投合しているようだぞ。

弥生 やや怖い気もするけど。

隆 いい雰囲気だ。

保子 そつとときましよう。…あのう、

根岸 ん。

保子 ホントお恥ずかしいんですけど、私たちその…西田さまの、なんていうんですよ
う、プロフィールっていうのかしら、よく存じ上げなくて…あの、公務員でい
らっしゃるといことしか…

根岸 ん。

保子 あの…どういった…？

根岸 ええ、ああ、まあ、なんとというか。法律関係。

一同（除く梶月） ……！

根岸 まあ、悪を裁く、うん、正義の。うん。

一同（除く梶月） ……！！

再集合する一家（除く梶月）。

ボソボソと話し合う。

一方外の小早川。

携帯を使っている。

小早川 …はい、そうです。なにやら怪しげなふたりの男が入っていきました。年輩の
男と若い男です。目つきが普通じゃない感じですね。ええ、私の勘では、新たな
犯罪計画が進行しているのではと…あ、チクショ…。留守電十八秒って短すぎ
るよな…。お。

メイン舞台、梶月を引立てて、早々に退去する家族一同。

そろそろと通り過ぎる一家、退場。

その後を尾行する小早川、退場。

根岸 なんだ、あれは。失敬な連中だ。

西田 …。

根岸 やっぱりあれだな、裁判官ちゆうのは、敬遠されるのかな。

西田 …また、会えますかね…。

根岸 なんだ、西田くん気に入ったのか。

西田 …。

根岸 だいじょうぶだ。そう落ち込むな。われわれは偉いんだから。正義のヒーローな
んだから。われわれがいなかったら、こりゃあもつ、世の中なんてものは、無茶
無茶になっちゃうんだから。

西田 世の中なんて、別に、どつても…

根岸 ほらほら、仕事するぞ。な。男は仕事だ。バンバンやるつ。悪人どもを退治しよう。世直しだ。な。ホラ。

根岸と西田、法衣を着る。

工藤、登場。席に着く。

近藤（修）、近藤（一）登場。定位置につく。

三戸谷、近藤（一）の側に登場。

小石川、登場。証人位置につく。

ぼうつとしている西田をこづく根岸。

根岸 ええ、では、近藤くん。

両近藤 はい。

根岸 あ。（忌々しげに舌打ち）検察の近藤くん。

近藤（修） はい。

根岸 新たな証人ということですね。

近藤（修） はい。

根岸 書類には…

近藤（修） 今朝、再提出しました。

工藤、書類を根岸に渡す。

近藤（一） 誰よあれ…。

三戸谷 …あれ…なんか見たことあるような…。

近藤（一） やっぱり隠してたんだわ…。

根岸 うん。じゃ、どうぞ。

近藤（修） では、小石川光二さん。

小石川 はあ。

近藤（修） どちらにお勤めですか。

小石川 えっと、探偵事務所に。

近藤（修） （資料見る）四日市探偵事務所、ですね。

小石川 はい。探偵助手やっています。

近藤（一） ……すぐ調べて。

三戸谷 はい。

三戸谷、退場。

近藤（修） 小石川さんは、被告人に関する調査しておられたそうですが、そもそも事の起こりはどういうことだったのか、お話し願えますか。

小石川 えっとですね。最初にお姉さんがきました。あ、その前にオカマが来まして。オカマがお姉さんを連れてきたんですけど。で、ちょうど所長が留守だったんです。まだ風邪で寝込んでます。今年の風邪はアシです、腰に来るんです。寒い中でチラシ配りもよくなかったと思っんですけどね。それでオカマが名刺を持ってまして…

近藤（修） あの…あの…！…すいません、最初から順を追って、わかるように話してもらえませんかね。

小石川 最初から。

近藤（修） 最初から。

小石川 順を追うんですか。
近藤(修) 是非とも。

小石川 順を追って言うと……その日はヒマだったんです。
近藤(修) ……続けてください。

ぼけつと窓の外を見ている小石川。
雑誌を持った桐生、登場し椅子に座る。

小石川 (大欠伸) いやあ……。ヒマだ。めまいがするくらいヒマですねえ。なんでこんなヒマなんだろうかね。

桐生 仕事がないからでしょ。

小石川 なんでウチの事務所は仕事がないんでしょうかね。

桐生 自分の胸にきいてみたら？

小石川 (考えているが、ゼンゼン別のことを思いつく) あ、そうだ桐生さん。思ったんですけどね、「放り出す」って言うでしょ。

桐生 ……

小石川 言うじゃないですか、「放り投げる」とか。

桐生 あんた何の話してんの？

小石川 あの「ホウ」ってのは、訓読み？

桐生 ……(馬鹿じゃなかるつか、という目)

小石川 訓読みですよ。使い方が訓読みっぽいでしょ、なんか。

桐生 (完全にどうでもいい) 訓読みなんじゃないの。

小石川 でも「放物線」っていうでしょ。

桐生 ……

小石川 「放尿」とか。さすがに音読みでしょう、「放尿」は。

桐生 音読みなんじゃないの。

小石川 じゃあ「放り投げる」も音読み？

桐生 音読みなんじゃないの。

小石川 おかしいですよ、音読みってそんな使い方します？「食べる」のこと、「シヨク」って言います？

桐生 言うんじゃないの。

小石川 いいませんよお。「放りっぱなし」とか…訓読みですよ。…でも「放尿」…うーん「放尿」はぜつたい音読みだよなあ…

桐生 放尿放尿ってうつとつしいわね、朝っぱらから！あんたそんなことより仕事のひとつでも取ってきたらどうなのよ。

小石川 え。どうやって？

桐生 チラシまだあまってるわよ。

小石川 こないだもビラ撒きましたんですよ、ボク。

桐生 なに胸張ってるのよ、あんた。当然でしょそれくらい。

小石川 だってボク探偵助手なのにと。

桐生 だいたいセンスなさ過ぎるのよ。今時あんな黄色と黒の肉屋の特売みたいなチラシで誰が来んのよ。あんなのに引っかかるのはね、せいぜい下の店のオカマくらいのもんよ。

マリア、飛び込んで登場。

マリア ちよっと！ ハジメちゃん！ ハジメちゃんいるッ！

小石川 わ、びっくりした。

桐生 また来た…。

マリア、奥の部屋に突進して消える。
すぐ戻ってくる。

マリア ハジメちゃんはどこッ！ 一、パチンコ、二、場外馬券、三、三、ああなたにも

思いつかないッ！ ワオ！ さあ速やかに答えなさいッ！

小石川 仕事っていう発想はないんですかね。

マリア ああッもうッ早くしてよッ！ 急いでんのよッ！ 見てわからないッ！

小石川 所長は風邪でオヤスミです。

マリア えええッ！ 困るッ！ 嘘ッ！ どうしよう。馬鹿は風邪ひかないのよッ！ 落

ち着くのよマリア。えいッ。よし。晴美、お茶ッ！

桐生 あんたに出すお茶はないよ。

マリア あたしじゃないのよ、お客。お客がきてんのよッ。

桐生 お客ウ？

マリア いいからさっさとお茶入れて！ ホラ動いた動いた！

桐生、渋々お茶入れに退場。

マリア そつね、いいわ…。ちよっと光ちゃん、もう、このさいアンタでいいわ。いい？

ちやんとすんのよ。頼りないとこ見せちゃダメよ。すっこいすっこい腕ききの探偵ってアタシ言っちゃったんだからね。

小石川 いやあの…なんのオハナシすか？

マリア なんのオハナシって…まだそんなタソガレたこと云うかッ、この口かッ！

小石川 いたたたた。

マリア あのね、店のお客さんでね、最近来ないなあってマリア思ってたら、そのお姉さんがきてね、弟いなくなっちゃったから探してらっというのよ。行方不明よ、わかる？ だからいい人がいるからって上に連れてきたの。しっかりハナシ聞いてよッ。アタシの顔にこれ以上何も塗らないでよッ！ いいわねッ。

小石川 …？

桐生お茶を持って戻る。マリア、戸口へ

マリア どうぞぞ、お姉さん。汚いところですけど…。

美佐 ……どうせ。

マリア おかけになって。こちら、坂口美佐さん。こちら探偵の小石川先生。

美佐 坂口です。

小石川 ……（呆然としている）

マリア ……（こらむ）

小石川 あ…小石川です。どうせ。

桐生 お茶どうぞ。（器用良く茶を出す）

美佐 あ、恐縮です。（一気飲みして返す）

桐生 ……。

美佐 なんかすみませんね突然。お邪魔じゃなかったですか。

小石川 いやあ、ぜんぜんヒマなんでかまわないっすけど…

マリア (どう猛なうなり声)

小石川 ……あつ、いや、ヒマっていつか…ヒマじゃないんですけど…仕事がないっていつか…。いや、仕事はあるんですけど、やる気がないっていつか…

マリア ……ちよっと(小石川を部屋の隅に連れていく)やる気あんの、アンタ。

小石川 いやあ…

マリア シャキツとしてよ、お願いだから。

小石川 シャキ。

マリア 口で言わないっ。

美佐 あの、なんかご迷惑だったら、自分帰りますが。

マリア ノー！ ノーノー！ ダメよお姉さん帰っちゃ！ そこに座ってて。大事な弟さんのことなから。

美佐 そうですか、それじゃお言葉に甘えて。…それにしても探偵という職業の方が実際にいるんですね。

マリア いますよオ。

小石川 います。

美佐 いやあ、自分は世間知らずなもんですから、つい珍しくて。いや失礼なことを言いました。

マリア あのお姉さんはどういったご職業かしら…？ それともご結婚してらっしゃる…

美佐 あ、自分ですか。

マリア 自分でいうか…。(愛想笑い)そ、ジ・ブ・ン。

美佐 自分は陸上自衛隊に勤務しております。

マリア ああ…。

美佐 二等陸尉です。昔で言つと中尉ですか。

マリア ……チュウイ？ (小石川に)チュウイよ。

小石川 ……中尉、ですよね。

マリア (気を取り直して)中尉よ、アンタ、中尉ってったら偉いのよ。ねえ。

小石川 そう、そうですよ。けっこう偉いっすよねえ。いやあ、たいしたもんですね。

マリア そうよ、なんたって中尉よ、もう、チュウイ一秒毛が三本てくらい偉いのよお。

小石川 はは、は…。

マリア つまんなかったわね、ごめんなさい。

美佐、カラダを折り曲げて爆笑している。

小石川 ……。

マリア つけてるわ…。

小石川 どこにツボがあるのか読めない人ですね…。

美佐の笑いが静まるのを気まずく待っているふたり。

美佐 (唐突に笑いやんで)実は来週からナヒチュバンに派遣になるんですよ。

マリア はあっ？

美佐 あ、知りません？ 今、内乱でドンパチャってます。自分、PKOで行きます。

小石川 ナ…ナヒ？
美佐 ナヒチユバン。

小石川 どこ？

マリア ん？（ニクニクしている）

小石川 どこです？

桐生 あたしが知るわけないでしょ。

美佐 アゼルバイジャンの中にある小さな共和国ですね。でまあ、場所柄、いちおう危険地域なんで、弟に知らせるところと思って、アパートに行ってみたらどうも帰ってる様子がないんです。

マリア それでウチのお店に？

美佐 ええ、あの、そちら、マリアさん…？

マリア ハイ、あたし。

美佐 マリアさんの名刺を見つけたもんですから。

マリア あ、あのプリクラ貼ってあるやつ？…やだわ、超恥ずかしい。

美佐 はあ、貼ってありましたね。

マリア トシちゃんイカスミ食べてお齒黒になっちゃってるやつでしょ。やだわ。

美佐 トシちゃん？

マリア あっ…ト…トシ…俊夫さん…ていうか、坂口さん。

美佐 あの、つかぬことをお伺いしますけど、マリアさんは俊夫の恋人と、こう考えてよろしいんでしょうか。

マリア えっ…あっ…あの…どうしよう…、…光ちゃん何とか言ってくよ！ フォロー
オロー！

小石川 うん。

マリア それだけ？

美佐 あの、もしそういうことだとしても、どうか気になさらずに。自分は職掌柄、慣れてますから。

小石川 はあ…

マリア いや、あのね、お姉さん、残念なんだけどあたしとトシちゃん…坂口さんは、そういうのじゃないの。あたしが一方的に片思いなだけ。確かちゃんと恋人がいらっしゃったわ、弟さん。

美佐 へえ。

マリア 一度お店に連れてきてたわね。なんか、法律事務所で働いてるお嬢さんだったけど…ええっと、あたし名刺もらったかな…。

マリア、ハンドバッグをゴソゴソ。

美佐 恋人というと、それは女性の？

マリア ええ。女性。えっと…どこいった…

美佐 それは意外だなあ。あの男、そんな甲斐性があったんだ…。

桐生 ちよつと。

小石川 んー。

桐生 口あけて見てないで、あんたも少しは探偵らしい仕事したらどう？

小石川 あ…あの、それですね。

美佐 はい。

小石川 とにかくまず、順序を追ってオハナシを伺いたいんですが…ええと弟さんの部屋に行ったのは…

マリア ぐわっ！ あった！ これよ、これ！

小石川 …。

マリア ホラホラ、お堅そつな名刺でしょ。波川法律事務所。ミトヤ、ジュンコ。匂子さんよ。

美佐 へえー。

マリア この人探して聞いてみるのがいいと思わない？

美佐 ですね。

マリア よし、決まった。行きましょう！

美佐 わかりました。

小石川 いや…あの…

マリア なにグズグズしてるの！ ホラ！ 行くわよ！

小石川 え。いや、だって…まだなんにも事情が…

マリア そんなの道々聞けばいいでしょ！ ねえお姉さん。

美佐 まあ善は急げっていいですから。

マリア そつよ、据え膳は急いで食べっ、て昔からよく言つよ。

美佐、呼吸困難に陥る。

マリア …またツボに入っみたい。

美佐 …(苦しんでいる)

マリア だいじょうぶ？ お姉さん、歩ける？…ホラ晴美っ、手伝って！ あんたも早くっ！

美佐を抱えるようにしてマリア、桐生、退場。

小石川、追って退場しようとするところへ、

近藤(修) ちよつと待って、待って！

小石川 …は？

近藤(修) ……長すぎる。

小石川 最初から順を追ってるんですけど。(証言台に戻ってくる)

近藤(修) みんな寝ちゃってます。…そこ、本読まない！

裁判官たち、寝ている。

近藤(一)、難しい顔をして文庫版「沈黙の艦隊」を読んでいる。

近藤(修) 要するに、被告のお姉さんが、坂口俊夫の居場所を探してくれと依頼して

きたと、そういうことだよらしいんですね。

小石川 はあ、おおむね。

近藤(修) おおむねでけっこう。それで、あなたは波川法律事務所の三戸谷さんに会いに行っただんですね。

小石川 そつなんです。

マリア、美佐、登場。

反対側から、三戸谷登場。

マリア あっ。あの子よ、絶対そつよ！

三戸谷 …あ、あの…な…なんでしょ…

美佐の敬礼とマリアのしなに取り囲まれる三戸谷。

小石川 (証言台にて)で、結局、坂口さんの弟さんは、出張に行ってるということがわかりまして。

近藤(修) なるほど。

小石川 それで会社の名前を聞いて、電話してみたんですね。

マリア、美佐、携帯で電話している。

近藤(修) ハイハイ。

小石川 ところが、会社では、坂口さんは休暇を取っていることになっていたわけです。

マリア、美佐、顔を見合わせ首をひねっている。

近藤(修) ハイハイ。

小石川 結局、会社をサボってどっかに遊びにいったんじゃないかなるうかってなことになりまして。

近藤(修) ナルホド。

小石川 お姉さんは、時間切れでナヒチュバンへ。

美佐、敬礼して退場。
マリア、美佐に手を振って退場。

小石川 それでまあ、ヒマだったもんで、その後一人で調べてみたんです。

近藤(修) フンフン。

小石川 それが大変だったんですよ、坂口さんの会社の人たちにイチイチ聞き込みしたりして、どんなふうにやったかかっていうことですね、例えばですね、丸井の店員の振りをして電話してですね…

近藤(修) あああ、あ、はい、それで結果的に、最終的に、被告人はその時期、市外にある自分の会社、えー、有限会社ポートローズの倉庫にいたことがわかったんですね。

小石川 はい。

近藤(修) そしてその倉庫の近辺の聞き込みで、被害者、つまり被告の元同僚である、殺された関口創平が一緒であったことが確認された。

小石川 はい。

近藤(一)の顔色が変わっている。

近藤(修) ふたりは毎日倉庫でなにか作業をしていたようだったと。

小石川 うん。

近藤(修) あなたは、倉庫に忍び込んでみた。これ不法侵入罪ですよ…。まあそれは置いて。そこには山のような在庫の靴があった。

小石川 そうそう。

近藤(修) それであなたはそのひとつを失敬して…窃盗罪だな、これ…、まあ、お土産に持って帰ってきた、と。

小石川 ですね。

近藤（修） はい。さてみなさん、その靴がここにあります。

星、登場して靴を近藤（修）に渡し、退場。

近藤（修） ごらんの通り、被害者が履いていたのと同じ型の靴です。この底の部分。鬼のように分厚いですが、みなさんもつお忘れでしょう、大昔に流行りましたね。こんな馬鹿げたシロモノを自慢げに履いて歩いてそこらじゅうで転んでいた時代がありましたね。ははは。いや失礼。さてこの靴ですが、実はこの底の部分、中が空洞になっておりました。そして中に入っていたのが、これです。

近藤（修）、ビニール袋に入った白い粉を出す。

近藤（修） おわかりでしょうか、みなさん。これは覚醒剤です。

近藤（一） （蒼白な顔を上げ）異議あり！

根岸 どうぞ。

近藤（一） 本件の範囲を逸脱しています！

根岸 異議を却下します。原告は続けて下さい。

近藤（修） 申し上げたいことは、被告坂口俊夫は、数年前から、関口創平と共謀し、覚醒剤取引を行っていた。今回の事件は、共犯者同士の利害の対立から生じた結果の殺人であるということです。小石川さん、どうもありがとうございます。た…以上です。

根岸 弁護士、反論をどうぞ。

近藤（一） ……休廷を…一時休廷をお願いします…。

暗転。

調査

探偵事務所。
四日市と小石川と桐生。

四日市 …それでオマエ、わざわざ依頼人の弟の不利になるような証言してきたわけ。
小石川 だって…所長もずつといなかったし…

四日市 ったく…なにやっつてんだか…。ああ、まだ寒気がする。

桐生 はい、お茶。

四日市 ああ、ありがと。晴美ちゃんもついてたんでしょ？ 駄目だよ、こいつに勝手なことやらせちゃ。

桐生 所長が日頃悪い見本を示すからじゃないんですかあ？

四日市 あいた。まあね…。俺も人のことは言えないけどさ…。で、依頼人は、その、なに？ ナヒ…

小石川・桐生 ナヒチュバン。

四日市 に旅立つちゃったわけ？

小石川 はあ。

桐生 生きてることさえわかればいいって言ってましたよ。

四日市 ふっん…じゃあ、まあいいか…。

桐生 依頼人はいいけど…

四日市 けど？

桐生、「下」を指す。

マリア、登場。

マリア ちよつとツ！ バカ探偵！

小石川 あっ。

桐生 ホラ来た。

マリア いたッ！ あんたね、なにアンボンタンなコトしてくれちゃってんのよッ！

マリア、逃げる小石川を追い回す。

マリア なんてトシちゃん陥れるようなことすんのよッ！ 全然ハナシ逆でしょうが！
あんた脳味噌腐ってんじゃないのッ！

桐生 賛成。

小石川 いやあ、面目ない。

マリア オマケに裁判で言わなくていいことまでスラベラじゃべっちゃってから、もう…ええいもう、この口かッ！

小石川 いたたたた。

四日市 ちよ、ちよつとおちつけよ、落ち着けつてば。

マリア ハジメちゃん！ もうあんただけが頼りよ！ お願い、なんとかして！

四日市 なんとかしてつたって、なにをどうすりゃいいんだよ。

マリア トシちゃんの無罪を証明してちょうだい。

四日市 無茶言つなよ。

マリア 頼むわ、お願い。これじゃアタシのせいでトシちゃん死刑になっちゃう！

四日市 だってその坂口つてのも、ヤクの取引やってたんだろ？

マリア そんなの…そんなの何かに間違えよ、トシちゃん、その関口つていう悪いやつにそののかされて、イヤイヤやってたのよ、そうに決まってる。あの子はそういう子。強く言われると逆らえないの。あたしの時もそうだったの。

四日市 は？

マリア バカ、なに言わせんのよ！ とにかくお願いよハジメちゃん！

四日市 そんなこと言ったってさあ…。

桐生 まあ、このままじゃ寝覚めが悪いんじゃないですか、所長も。

マリア あんた、晴美、いいこと言っわ！ あんたどっか違うと思ってたのよアタシ！

桐生 ちょっと、抱きつかないでよ。

マリア なによ。

小石川 スミマセン、ボクからも、お願いします。

四日市 わかったよ、わかった。やりやあいいんだろ。

マリア ギャー。ハジメちゃん素敵！

四日市 よし、んじゃ行くぞ、小石川。

小石川 え、どこ。

四日市 どこつて、おまえ、タダで仕事するわけにいかないんだから、まずカネ払ってくれそうなのヤツのところだよ。いいから黙ってついてこい。晴美ちゃん、留守頼むね。

桐生 はあ。

マリア 頑張つて！

マリア、見送るカタチで追って退場。

桐生、それを見送って奥へ退場。

警察署。

広末と町田が資料を見ている。

広末 なんだか、ズサンな捜査だなあ。

町田 確かに。

広末 これでよく起訴できたな。

町田 ですね。

広末 この、麻葉取引つていうの、ホントなのかね。

町田 まさかデッチ上げてことはないでしょう。

広末 ふうん…。まいいや、問題は…

町田 はい、問題は？

広末 なんだと思う？

町田 え。えー…さっぱり…

広末 靴だよ。

町田 はあ。

広末 アレがわかれば全部わかる。なんで死体があんな靴履いてたのか。さあ、なんで！

町田 え。いやあ…なんででしょう？ 犯人がやったんでしょかね？

広末 うん。死体にね、ああいうふうにしルシを残すのはね、自分がやったってことを知らせたいからよ。

町田 自分がやったというシルシがないと意味がない犯罪…

広末 そ。

町田 それは？

広末 …なあ、この靴、ずいぶん古いよな。

町田 ええ。十年前くらいはやつらしいですよ。

広末 ちよつと破れてるし。

町田 無理矢理履かせたからじゃ…

広末 (考え込む) 町田くんさ、この靴、発売当時の地域で売ってたか調べてくれる。

町田 はい。

広末 よし、行つて。

町田 はい…。あの、やっぱり坂口はシロですかね。

広末 あつたり前じゃないの。

町田 裁判じゃ、有罪に傾いてるらしいんですよ。

広末 だつてアリバイあるでしょ。

町田 え、ありましたっけ？

広末 酔っぱらつて寝込んでた時に、目撃されてるだろ。

町田 ああ、…黒人てやつですか？

広末 黒人だろつが変人だろつが目撃者は目撃者。だからシロ。

町田 でも…嘘かも…

広末 嘘ならもつと尤もらしいことを言う。だからそいつが見つかれば坂口は無罪。

町田 じゃあそいつを探した方が…

広末 バカチョン。坂口が無罪になったところで仕事は終わらないでしょ。だから真犯人を探すほうが早い。だから靴。ク・ツ！ 早く行く！

町田 はい！

町田、退場。

広末、退場。

近藤(一)、三戸谷、登場。

三戸谷 すみません、ホントに…。

近藤(一) あなたのせいじゃないわよ…。

三戸谷 でも…。

近藤(一) …まいったわね…。

三戸谷 まさか彼があんなことしてたなんて…。

近藤(一) 今はそんなこと言ってる場合じゃないわ。なんとかしないと…

四日市、登場。

四日市 あのう、ごめんなさい。

近藤(一) はい？

四日市 あ、どうも。私、四日市探偵事務所の四日市一と申しまして…

近藤(一) ああ…。

四日市 なんかウチの若いのがご迷惑かけたそうで…。

近藤(一) いえ。仕方ないことですから。

四日市 あ、ハナシのわかる先生で…助かります。

近藤(一) なにかご用ですか？

四日市 いや、それでね、罪滅ぼしってわけじゃないんですが、もしお困りになっていらっしゃるようなら、微力ながらお手伝いをと思ひまして。ええ。

近藤(一) ……。

四日市 目撃者はいるらしいんだけどそいつがどこの何者かわからない、そいつさえ出てくればひっくり返せる。そういうことですよね。

近藤(一) よくご存じね。

四日市 まあ蛇の道は蛇ってわけですよ…。どうでしょう、お手伝いさせていただきませんか…。サービス価格で…。

近藤(一) ……。

密談に入る三人。

警察署。

町田、資料を抱えて登場

町田 おおい…。ちよつと誰かいらないか？

未来、登場。

未来 はい。

町田 これ、ちよつと持ってきてくれ。

未来 なんですか、これ。

町田 警部に言われた資料。あの靴を売ってた店のリストと…それから扱ってた問屋と…。

未来 けっこうありますね。

町田 でもな、ほとんど売れなかったみたいだよ。ブームの終わり頃だったから。

未来 へえ。けっこう田舎でも売ってたんだ。

町田 ああ、ブームは東京で始まって田舎で売り出すところに終わるんだ。

未来 ……。

町田 なに？

未来 この店…ていつかこの町名…どっかで…

町田 ……あ、これ…関口の生まれた町だ…。

未来 ……。

町田 ……だから、なんなんだろう…。

考え込む町田と未来。

四日市 わかりました。こりゃあ特急ですなあ。

近藤(一) とにかく急ぐのよ、坂口俊夫にあの夜接触した、その「黒人」ていうのが出てくれば、ひっくり返せるの。

四日市 やりましょう。裁判は次は…

近藤(一) (一) 三日後。

四日市 ……。(難しい顔で考え込む) いや、とにかくやってみましょう。

近藤(一) (一) お願い。

三戸谷 お願いします。

四日市 じゃ。

四日市、退場。

近藤（一）（三戸谷、退場。

警察署。

町田 …。

未来 …。

町田 いくら考えてもわからないな。

未来 ていうか、なにを考えたらいいのかがわかりません。

町田 たーしかに。

広末、登場。

町田 あ、警部。

広末 ー。

町田 あの、靴の販売地域ですが…

広末 あー。

町田 被害者の生まれた町ですわ、売ってたんですよあの靴…それで…あの、警部…？

広末 あああああ、やる気レス。

町田 はあ？…ああ？…（バイブで携帯が鳴った）あ、電話。すいません。ちょっといいですか。

広末 どうぞどうぞ、ご自由に。

町田 （すみっこに行つて話す）はい…町田…なんだ、おまえか、今？ 今勤務中だよ！…え？…うん…え？…うん…うん…

未来 警部、どうしたんですか？ なんかあったんですか？

広末 まったく、もう、ホントに、上の連中ってのは、どつしよつもないのばかり。

肩。カス。もう円超ム力つく。

未来 はあ？ うえって？

広末 佐々くんには悪いけど、君のお父さんみたいな人たちのこと。

未来 はあ？

広末 ストップだってさ、もういいってさ、坂口、有罪にできそうなんだってさ！

未来・町田 えっ。

町田 …いや…こつちの話…だから今、ちょっと…大変な…え？…うん…うん…

広末 そついうことなの。まったくバカバカしい。もついいよ。有罪でも無罪でも洗剤でも枯れ葉剤でもなんでもこいだ。ははん。

未来 だって…その坂口って人、無罪なんですよね。

広末 たぶんね。

未来 だったら冤罪になっちゃいますよ。

広末 わたしのせいじゃないね。

未来 なんとかしてあげないと。

広末 なんともならないね。

未来 でも…

町田 …うん、わかった…ちょっと待っていてくれ…あの、警部…

広末 ああん？
町田 すみません、ちょっと…

町田、携帯を押さえて、広末に耳打ちする。
四日市、携帯片手に登場

四日市 …だからさ、おまえ後追い捜査してるって言ってただろ。手組もうぜ。アリバイさえ立証できればいいんだからさ…お互いメリットあるだろ？…だから資料貸してくれよ…なあ、長いつきあいじゃねえか…おい、聞いてんのかよ…おい、町田！ あれ…？

町田 (耳打ちを終えて) というわけなんです。

広末 (ガバと立ち上がり目を爛々と光らせる) その探偵、坂口の弁護士とつながりがあるんだな。

町田 ええ、そうらしいです…

広末 アリバイの証人がでたら、証人台に上げられるんだな。

町田 はあ、そう言ってます。

広末 しめた。よし。

町田 (電話に) OKらしいぞ。

四日市 ホントかよ。よっしゃ。じゃあ後でな。

町田 わかった。

広末 佐々くん、小早川呼び戻して。

未来 はい。え、でもどうして…

広末 いいから。珍しくあいつが必要なの。GO。

未来 はいっ。

未来、退場。

町田 警部、どうするんです？

広末 ひっくりかえしちゃうの。

町田 はあ。

広末 直接やれないからさ、その、君の知り合いの探偵にやってもらっ。

町田 はあ、でも、どうやってアリバイを…

広末 証人いるもん。

町田 えっ。いるんですか。

広末 いるいる。たくさんいる。

町田 たくさん。

広末 ああ楽しい。あたしルノールでココア飲んでくる。小早川来たらつれて来て。チャオ。

町田 チャ、チャオ。

広末、退場。

町田 …。(首をひねっている)

暗転。

証人4

— 弥陀ヶ原一家 —

暗転あけ。

法廷。

裁判官たち、検事、弁護士。

四日市、登場し、近藤(一)に耳打ち。

近藤(一)、頷く。

四日市、退場。

根岸 それでは証人はどうぞ。

弥陀ヶ原一家、そろそろと登場し、証人台に並ぶ。

西田 あっ。

根岸 (こづく、咳払い) 近藤弁護士。

近藤(一) はい。

根岸 これは全員一緒じゃないといけませんか。

近藤(一) 証人のたつての希望なので、このままお願いします。

根岸 わかりました。では、どうぞ。

近藤(一) 弥陀ヶ原さんのご家族ですね。

保子 はい。

近藤(一) お聞きしたいことはひとつだけです。事件のあった夜、ご家族がどこでなにをされていたのか、それを話していただけですか。

隆 あの夜…

臯月 私たちは、十二時きっかりに、家を出ました。

弥生 全員そろって。

隆行 行く先は二丁目の商店街。

保子 今夜の獲物は

隆行 シラタキ。

隆 シラタキの入っていないスキヤキなんてスキヤキではないっ。

弥生 との父親の意見に賛同した私たちは八百屋の「ヤオ九」へと向かった。

臯月 と、そこに。

隆行 あれはなんだ。

保子 あなた、あれは…。

隆 うん、人だ。

弥生 道の真ん中に人が倒れている。

隆行 放っておこうよ、あとからマズいコトになるぜ。

臯月 でも…怪我とかしてたら大変…

隆 やさしいな臯月は。

保子 せめて道の脇に寄せてあげましょう。

隆行 そうして僕らはその人を抱え上げて、

弥生 道の端へと運びました。

保子 その人は運ばれながら、口の中でなにやらお礼を言っていました。

隆行 うっすら目もあいていたようでした。

弥生 私たちはその人を道ばたに横たえると、

隆 さ、急ごう。
 保子 八百屋のヤオ九へとひた走ったのです。
 弥生 シラタキを求めて。
 隆 これが、あの晩の出来事のすべてです。
 全員 (頷きあって) 私たちがやりました。(頭を深くと下げる)
 近藤(一) 頭を上げてください。だいじょうぶ、今日はあなた方の裁判ではないんです。それで、みなさんが助けた人が、ここにいますか。
 全員 います。
 近藤(一) どの人ですか。
 全員が被告席の坂口を指さす。

近藤(一) …最後の質問です。あなた方、その夜はどんな格好をしていましたか？
 隆行 いつもの盗み用の服に…
 隆 顔を靴墨で黒く塗っておりました。
 近藤(一) 以上です。
 弥陀ヶ原家全員 すいませんでしたあ！(頭下げる)
 根岸 …原告、なにかありますか。
 近藤(修) ……ありません。
 根岸 それでは、判決まで一時間の休廷とします。
 裁判官、退場。

星、登場。

星 近藤さん。
 近藤(修) …完敗だ。ま、こんなこともあるさ。
 星 佐々刑事部長がお見えです。
 近藤(修) …。

佐々、登場。

佐々 近藤くん。
 近藤(修) どうもすみませんでした。…負けます。
 佐々 いいんだ、ほっとした。
 近藤(修) …。
 佐々 警察の後追い捜査に圧力かけたの、ボク。
 近藤(修) …はい。
 佐々 坂口が無罪になるとね、困るんだ。
 近藤(修) …。
 佐々 真犯人の捜査になっちゃうとね…。
 近藤(修) 知ってました。
 佐々 そう。
 星 …え、まさか…
 佐々 ん。
 星 すすむ…いえ、刑事部長が、やったんですか？

佐々 (笑って) まさか…ボクじゃないよ。でも…ボクにも責任、あるかもね。……これだよ。よかったんだ。ボクは辞表出すよ。近藤くん、ご苦労さま。
近藤(修) ……ご苦労様でした。
佐々 みどりくん。それじゃあね。
星 ……あ…はい…

佐々 退場。

近藤(修) ……星。

星 はい。

近藤(修) ここはもういいから(行ってやれ、の身振り)

星 はい!

星、佐々を追って退場。

近藤(修) 潮時かな…。俺も…。

裁判官たち、登場。

根岸 静粛にそれでは判決を申し渡す。被告人坂口俊夫を無罪とする…。

根岸の主文が続く中、

中央で向かい合う近藤(修)、近藤(一)。

近藤(修) ……。

近藤(一) ……。

近藤(修) おめでとう。

近藤(一) ありがとう。

退場していくふたり。

暗転。

真相

暗転あけ。

中央前に美佐がいる。

後方探偵事務所にはマリア、坂口、小石川がいる。

美佐 拝啓。俊夫へ。元気で生きてますか。早いもので、激戦地ナヒチュバンへ派遣されてもう三ヶ月になります。反政府ゲリラや独立戦線の戦士たちが毎日バタバタと死んでいます。私が私は元気です。そういえば裁判の被告になったそうですが、その後どうですか。マリアさんたちは元気ですか。たまには姉さんに近況を報告しなさい。それでは。ナヒチュバンより。坂口二等陸尉。

美佐、退場。

マリア (手紙から目を上げ) だってさ、トシちゃん。

坂口 はあ。ホント、みなさんにご迷惑かけちゃって。

マリア ホントよ。もう。

桐生 はい、お茶。

坂口 すいません。

三戸谷、登場。

三戸谷 こんにちは。

マリア あら。いらっしやい。晴美ちゃん、あたしの義理の妹にお茶。

晴美 …はいはい。

三戸谷 あ、すみません。…義理の妹？

マリア なんでもないの。ウフ。

小石川 裁判のほうどうなんですか？

三戸谷 主犯が関口で、俊夫は従犯ってことで、情状酌量がつきそうなの、ね。

坂口 いい弁護士がついてくれたんで。

マリア そう、よかったわ。…まったくもうこの人は。

坂口 すいません。

晴美 はい、どうぞ。(お茶出す)

弥陀ヶ原一家、登場。

保子 あのう、こちら四日市探偵事務所…あ。

三戸谷 あら。

保子 このたびはお世話になりました。四日市先生にお礼を…

マリア まあまあお揃いで。晴美、お茶。

晴美 …。

マリア あなたたちも裁判なのね。

隆行 はい、でも、いい先生についていただいたので…

弥生 軽く済みそうです。

隆 どうも、このたびは…

警察メンバー四人、登場。

町田　こんちわ。…うわ。
 広末　やたら人がいるな。
 未来　すごい密度ですね。

小早川　あ。

弥陀ヶ原一家　あ。

小早川　…えーと…どうもその節は。

隆　お世話になりました。

マリア　晴美！　お茶追加！

晴美　…もう好きにして。

マリア　ねえ、こんなにお客さんきてんのに、肝心の所長はどこいっちゃったの？

晴美　さあ。

広末　ああ、彼にはちょっと私、頼み事したから。

小石川　頼み事って？

広末　うん、ちょっと犯人のとこ行ってもらった。

小石川　…はあ。

広末　タイホする前にさ、自首した方がいいかななんて、まあ、なんていうのホトケ心ってやつ？

町田　え、犯人…真犯人…？　ええッ！

四日市、登場
 梶、登場

四日市　そついうわけでして…広末警部からの伝言です。自首なさった方がいいと私も
 思います。

梶　…（振り返って）登紀子…。

横山、登場

横山　…。

梶　…どうするの？

横山　…。

四日市　あなたが関口と同じ田舎町の出身で、十年前に、当時未成年だった関口から暴行された。あの靴はそのときあなたが履いていた靴ですね。

横山　…。

梶　登紀子…。

四日市　復讐だったわけですね。

横山　出会わなければ…

四日市　…。

横山　十年経って、あの男に偶然出会わなければ、よかった…

梶　…。

四日市　調べました。情状酌量の余地はありません。あなたは勇気を出して訴えた。裁判にかけようとした。ところがその訴えそのものが取り上げられなかった。関口の家は、あの村では旧家で、力があつたんですね。…そのとき、関口の親に力ネを積まれて事件のすみ消しをしたのが、当時警察署長だった、佐々晋…。

横山　…。

四日市 大丈夫。いい弁護士を世話しますよ。夫婦でやってるんです。新しく開業したんですがね、とたんにおおはやりです。腕は確かですよ。

梶 ……登紀子。

四日市 ……横山さん。

横山 ……はい。 ……自首いたします。

梶、横山を抱きしめる。

メイン舞台では、近藤（一）と近藤（修）が登場。
晴美と三戸谷が手分けしてお茶を配っている。

音楽が高まる。

幕。